



Mitutoyo

MEASURE

産業のマザーテクノロジーと呼ばれ、世界中のあらゆる製造シーンで必要とされ続けている、精密測定。

現代においては“インダストリー4.0”に象徴される目覚ましい技術革新の波の中で、

工場や製造業そのものの在り方はますます高度化し、精密測定に期待される役割も高まりを見せる一方です。

1934年に創業したミットヨは、「精密測定で社会に貢献する」を理念としながら、

世界に市場を拓げ、精密測定機器の総合メーカーとしての歩みを重ねてきました。

けれどもいま、私たちが挑戦するのは「測る」だけでは終わらない、お客様にとっての「その先」を創り出すソリューションです。

最適な検査環境の開発、自社技術を応用した現場の工程改善、測定データの活用による「止まらない工場」の実現まで。

製造の根幹に携わる存在だからこそ、可能性の広がりは無限です。

「測る」のその先へ。

ミットヨの新しい挑戦が始まっています。



and . . .



「測る」を変えることで、
「作る」を変えていく。

スマートファクトリーの実現支援

M³ Innovation

従来、精密測定は、製造ラインとは隔てられた検査室の中で行うものでした。一方、これからのミットヨが思い描くのは、“作る”と“測る”が一体となることで、自律的・持続的に動き続ける「止まらない工場」の姿です。Measure【測定の効率化】、M2M【仕様や規格を超えたネットワーク構築】、Manage【測定データの分析・活用】という“3つのM”をコンセプトに、世界の製造シーンに新しい変化を起こしていきます。

Measure

測定からスマートファクトリー化を支援

もっとラインの近くで。マシンのすぐそばで。ミットヨは、「測定は検査室で」という従来の常識に挑み、生産ラインの流れを止めることなく検査できる精密測定をご提案しています。加工から検査までの工程が完全に自動化された環境も実現可能に。スマートファクトリー時代の新しい測定のカタチです。





M2M/Machine to Machine

ボーダーを超えたプラットフォームの実現

機器同士がネットワークを通じて連携し、高度な処理や制御にあたるM2M (Machine to Machine) の概念。ミットヨは、仕様や通信規格のボーダーを超え、多様な機器と測定機をシームレスに結ぶネットワーク構築を進めています。測定データを横断的に活用できる、お客様中心のプラットフォームを実現します。



Manage

測定データを“次の一手”へ

何か問題が起こってからの対処ではなく、常に問題が無い状態を維持し続ける。そうした「一歩先の管理」のため、機器の状態をオンラインで監視できるシステム (SMS) や測定データを統計的に解析するシステム (MeasurLink) を提供。「測定」のみならず「製造」に関する問題解決に貢献します。





Mitutoyo

MiSTAR 555

そのクオリティを、
世界の工場が待っている。

精密測定を最先端で探求

1nmの技術力

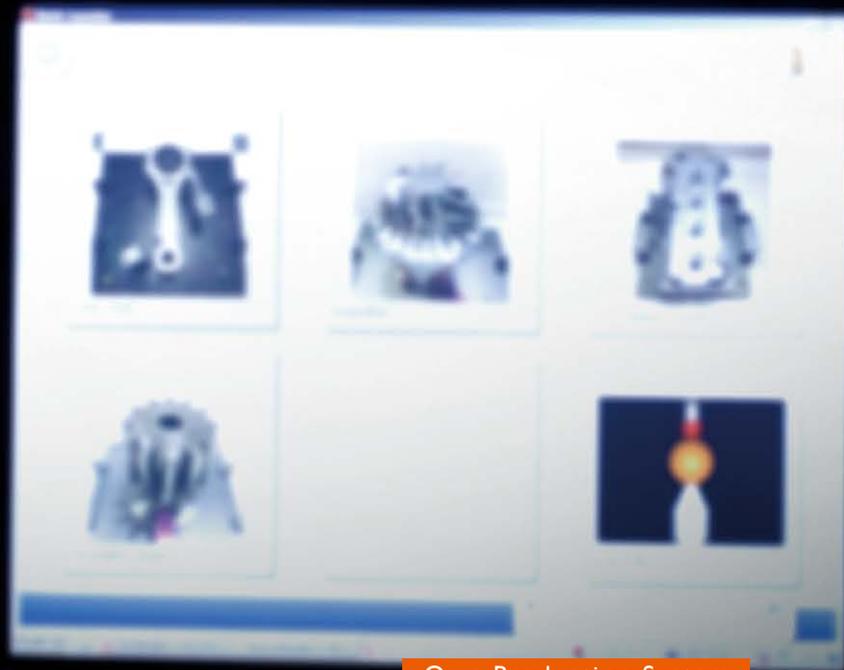
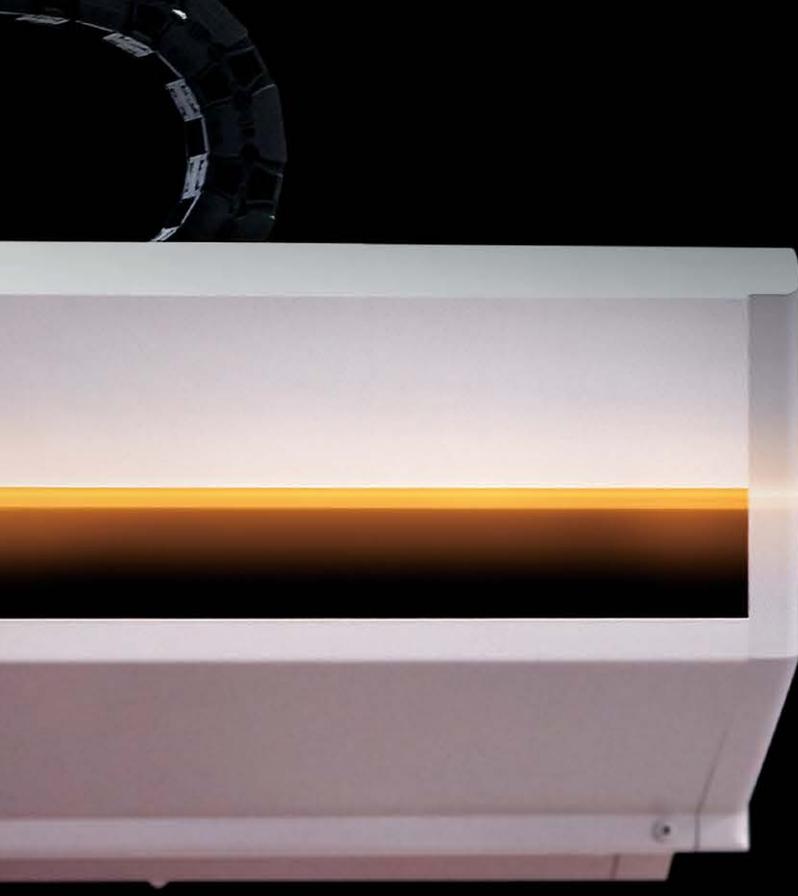
「測定機器の精度以上に、精度の高いものは作れない」。精密測定が“産業のマザーテクノロジー”と呼ばれる所以です。いうまでもなく、測定精度はもの作りの生命線であり、1nm(ナノメートル)の精度を提供できるミットヨの技術力は、ますます高度化する現代の産業技術の最先端を担っているともいえます。精密測定の世界的リーディングカンパニーとして、ミットヨは今なお進化を続けています。

Global Leading Company

精密測定のリーディングカンパニー

精密測定機器の総合メーカーとして、お陰様でミットヨの名は世界に広く知られています。事実、ミットヨ商品は国内・海外とも有数のシェアを誇り、業種や国境を越えて数多くの現場で選ばれ続けています。世界の名だたる企業も認めるその信頼性。ミットヨ品質は世界品質です。





Thousands of Lineup

5500種類以上に及ぶ商品数

ミットヨの強みは、製造シーンの多様なニーズに応えるべく、きわめて多岐にわたる商品を展開していること。ノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージ、形状測定機、硬さ試験機、光学機器、画像測定機、座標計測機器など、その数は5500種類以上。「測る」ニーズの数だけ、ミットヨ商品が存在しているといっても過言ではありません。



Own Production System

キーテクノロジーは自社で持つ

お客様からの信頼に応える商品を生み出すため、「キーテクノロジーは自社で持つ」という方針のもと、機械、電気電子、ソフトウェア、光学等、幅広く高度な技術を自社開発・保有しています。自社一貫体制だからこそ可能な、ポリシーの徹底した商品提供は、ミットヨに息づく不変のDNAです。



使い続けてもらうことが
ミットヨの使命。

サポートもまたミットヨブランド

独自のサービス体制

お客様の現場とミットヨの関係は、販売したら終わりではなくそこがスタートです。すべてのお客様がミットヨ商品を本来の性能でご使用いただけるよう、総合メーカーならではの高品質なサービスをご提供しています。セットアップからソフトウェア講習、検査・校正、精度調整、保守メンテナンス、修理といった種々のサービスを、国内・海外ともに充実の体制でご提供いたします。

Calibration & Traceability

トレーサビリティ体系を活かした **信頼性の高い校正サービス**

国家標準と同等レベルの光周波数コム装置を保有するミットヨでは、それを頂点とするトレーサビリティ体系を活かした信頼性の高い校正サービスを提供しています（JCSS認定取得）。海外の現地法人においても校正部門を持ち、それぞれ国際規格ISO/IEC 17025に基づく認定を取得しています。



Customer Support

ミットヨ・カスタマーサポートセンタ

ミットヨのサービス拠点として世界各国に展開しています。商品についてのご質問やご相談に、専門のスタッフがお応えするとともに、カスタマーエンジニアによる修理が必要となる故障等の場合は、サービス拠点への派遣要請を行います。必要なときに必要なサポートをお客様の現場へお届けします。



Mitutoyo Institute of Metrology

ミットヨ計測学院

1975年に設立した「計測技術者の養成と技術向上」を目的とする教育機関です。測定実習を主体としたカリキュラムで、ものづくりの現場における精密測定の基本・実践・応用を網羅する内容となっています。世界の主要拠点に開設され、毎年数多くのお客様に受講いただいております。



衣・食・住、家庭から宇宙まで、 ミットヨの「測る」が支えています。

パソコンや家電製品、クルマ、文房具、携帯電話など、身の回りのあらゆるモノと深く結びついている「測る」技術。ミットヨの製品は、現代の高度化した産業を根幹から支え、人々が生活する社会の中で広く役立っています。

長さを測る



あらゆる製品の長さを正確に測る マイクロメータ・ノギス

あらゆる産業の現場で使われている測定工具です。長さの測定にはその形状と精度に応じ測定機器を使用しますが、5/100～1/10,000mmを測ることができます。マイクロメータは、創業期のミットヨが国産化に初めて成功した、原点ともいべき商品です。

かたちを測る



ものの形状や表面の粗さを測る 輪郭形状測定機・表面粗さ測定機

金型、ねじ、レンズなどの微細な形状を高精度に測定する輪郭形状測定機の代名詞として使われるコントレーサはミットヨが開発しました。また、ものの表面の粗さを測定する「表面粗さ測定機」も多様な現場で活躍しています。

座標を測る



複雑な立体物の座標値を検出する 三次元測定機

XYZの座標で形状を捉える「三次元測定機」は、航空機のジェットエンジンのブレード、自動車のボディ、ロケットや人工衛星などの部品にも使われる精密測定技術の結晶です。複雑な構造物も精密に計測します。

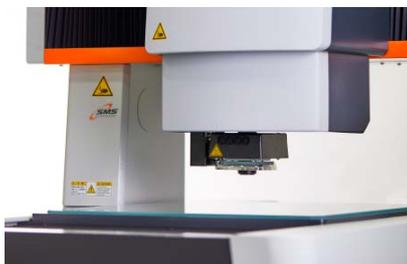
技術をソリューションとして提供する

ミットヨは、測定機器＝商品の提供ばかりでなく、「お客様が必要とされるものは何でも提案する」という考え方でビジネスを展開しています。例えば、測定機の技術から派生させたセンシング領域や、現場のプログラム作業を支援するソフトウェアソリューションもそれらの一つです。長年培ってきた自社技術を様々なに応用することで、新たなソリューションを提供します。





映して測る



非接触で効率的に画像解析する
画像測定機

画像処理によって測定物のエッジを検出することで非接触で高速に寸法を測定。ゴムや樹脂のような、やわらかくて触れると変形してしまう部品や、電子基板のような微細形状の測定に適しています。

微細を測る



顕微鏡など光学特性を利用した精密測定
光学機器

ガラス基板、液晶カラーフィルタなど、ナノレベル(1nm=1/1,000,000mm)の微細な領域の計測に光学技術は欠かせません。ミットヨは光学機器の目ともいえるレンズを自社で開発。顕微鏡、画像測定機などにも搭載しています。

状態を測る



硬さなど各種状態を測る
材料試験機

材料の硬さを数値化する「硬さ試験機」など、多様なニーズに応じた材料試験機を扱っています。日々変化する現場で、安定した品質管理に貢献します。

進化するミットヨデザイン

測定精度をはじめとする性能はもちろんのこと、製品デザインもまた企業の重要戦略と位置づけ、全社を挙げて取り組んでいます。視覚的な美しさと機能的な合理性を追求し、ミットヨのブランド・アイデンティティを体現させたデザインは、現場のどの場所からでも一目で存在を認知でき、「製造現場における精度の証」としても機能します。「現場とともに進化するミットヨ」の象徴です。



ミットヨのものづくりを支える“生命線”

世界トップレベルの研究開発施設と、先進的な生産設備を集積させた自社工場、そして確かな知識と経験をもつ技術者たちによって、ミットヨの技術力は支えられています。

川崎工場



ミットヨ本社に併設された川崎工場は、1940年に設立された歴史ある生産拠点であり、画像測定機、対物レンズ・光学機器、レーザスキャンマイクロメータ、精密センサなど数多くの製品を生産しています。また、同敷地内には開発拠点もあり、新製品のパイロット工場としての役割も有しています。



宇都宮地区 測器工場 / MC工場 / 清原工場



宇都宮市で1944年に操業を開始し、下栗地区(10万㎡)で測器工場(ノギス、ハイトゲージ)、MC工場(三次元測定機、大形画像測定機)が稼働しています。2020年には『M³ Solution Center UTSUNOMIYA & Calibration Lab』を新たに併設し、ものづくり現場との連携によるソリューション提案拠点となっています。また、11km離れた清原工業団地の一角(3.4万㎡)で1982年から清原工場(リニヤスケール、電装モジュール)が重要部品工場として稼働しています。



広島地区 呉工場 / 志和工場 / 郷原工場



瀬戸内海を望む、広島県呉市を中心とした3つの拠点で事業展開。呉工場（光学測定機や接触・非接触の形状測定機など）、志和工場（マイクロメータの一貫生産）、郷原工場（精密鋳造品の素材供給）から構成され、世界へミットヨの技術を発信しています。

中津川工場



ダイヤルゲージ、テストインジケータ、デジマチックインジケータ等のインジケータ類の専門工場として、岐阜県中津川市で1997年より操業開始。自動車や工作機械の生産が盛んな中部地区で、「お客様に近い」という利点を活かし、高性能かつ高品質な測定機器を生産しています。

宮崎工場



ゲージブロック等基準器の専門工場として、宮崎市田野町で1985年より操業開始。ゲージブロックに要求されるナノメートルの精度を実現するため、地下精密測定室に自社製光波干渉計を設置。世界トップレベルの品質を誇る工場です。

研究開発本部

ミットヨでは、ワールドワイドな協力体制の下、各開発拠点の高度な専門性を駆使してお客様の問題解決に貢献する先端技術開発と新商品開発を行っています。研究開発本部はグローバル開発体制の中心的拠点として位置づけられており、戦略商品開発部、機器商品開発部、測器開発部、ソフトウェア開発部、デバイス技術開発部、計測技術開発部、工業デザイン室、開発管理部で構成されています。





世界の各地域に応じた“グローバル”な展開

早くから世界のマーケットを舞台に事業を発展させてきたミットヨ。
現在では世界31カ国に拠点を持ち、60数カ国の代理店ネットワークを展開しています。
グループとしてグローバルな連携体制を確立するとともに、
各国の地域特性にシなやかに対応する“グローバル”経営の強化を図り、
世界中のお客様へ、いつも最適なソリューションをご提供しています。



本社



測器工場 / MC工場



清原工場



中津川工場



呉工場



宮崎工場



Mitutoyo America Corporation



Mitutoyo Deutschland GmbH

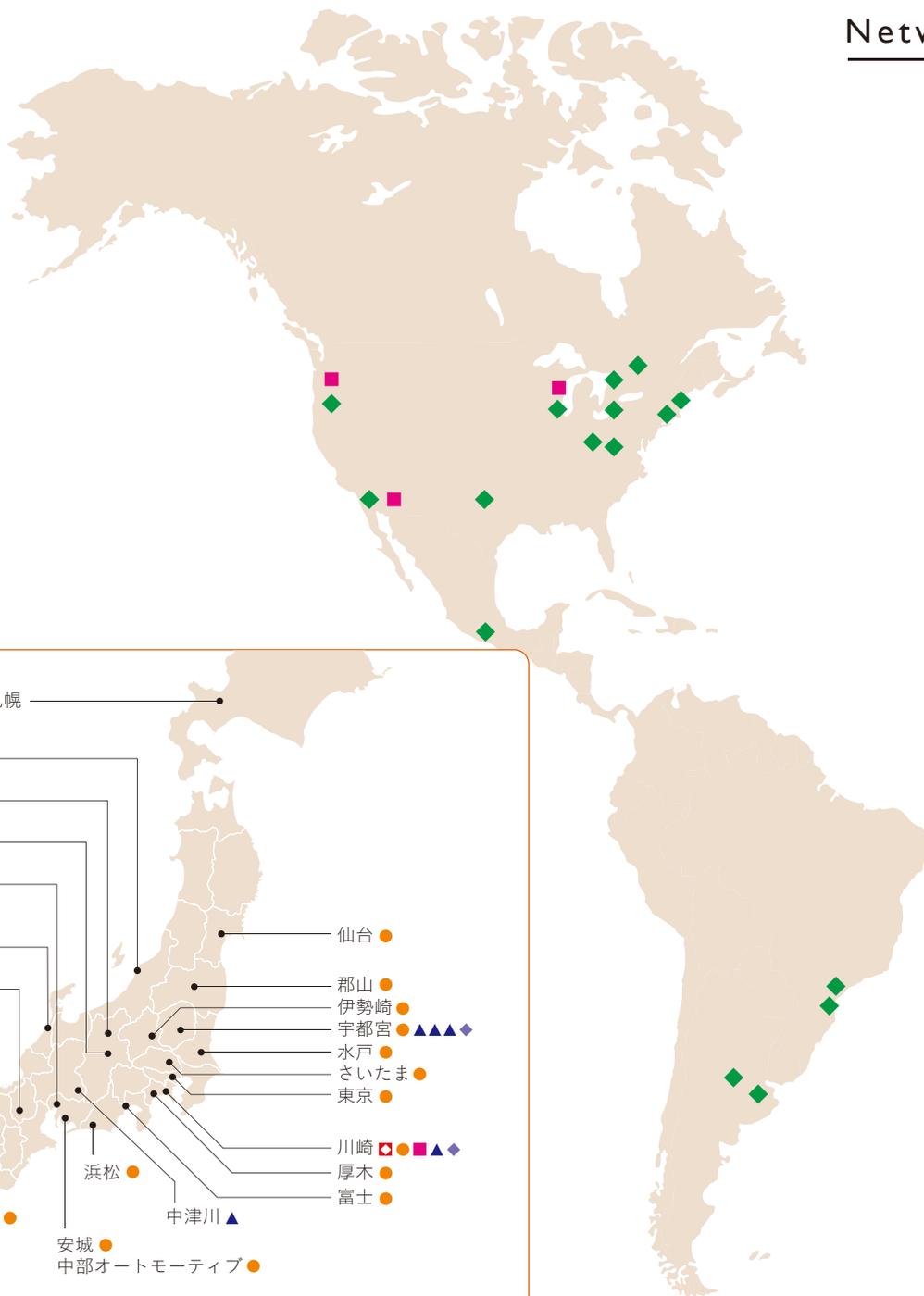


Mitutoyo Asia Pacific Pte. Ltd.

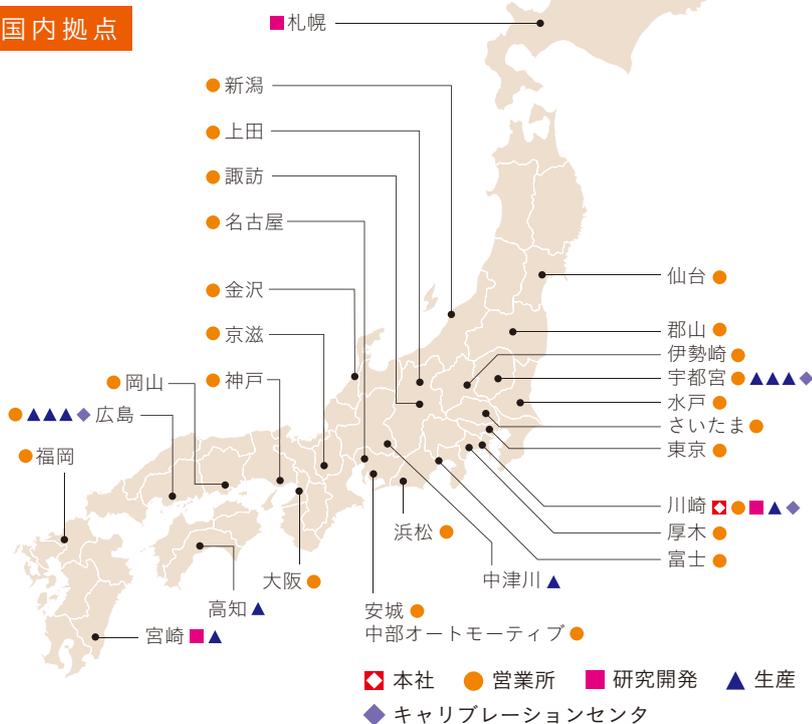


Mitutoyo South Asia Pvt. Ltd.

- ◆ 販売
- 研究開発
- ▲ 生産



国内拠点



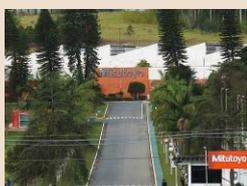
2022年5月現在



志和工場



郷原工場



Mitutoyo Sul Americana Ltda.



Mitutoyo Measuring Instruments (Suzhou) Co., Ltd.

問題解決の最適策を
実演・提案

M³ Solution Center



ミットヨのソリューションを実演・提案するデモンストレーション・スペースとして「M³ Solution Center」を全世界に展開しています。商品展示や専任エンジニアによる実演・実技指導のほか、システム導入にあたってのご相談を承っています。“測る”はもちろん、“作る”の問題解決のヒントも、きっと見つかります。

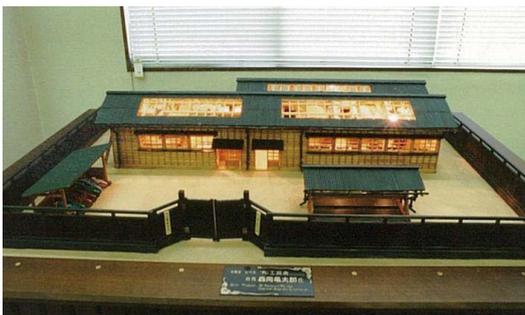
志を受け継ぎ、世紀を超えて

1934年に小さな研究所からスタートし、世界にその名を知られるグローバルカンパニーへと飛躍を遂げたミットヨ。すべては、「事業を通じて世の中の平和と人々の幸福に貢献したい」という創業者 沼田恵範のひたむきな情熱から始まりました。その志は、変化する時代の中で今も変わらず受け継がれています。

1934- 三豊製作所の誕生へ

マイクロメータの国産化を目指して

1934年、東京蒲田で創業者沼田恵範が当時ほぼ100%輸入に頼っていたマイクロメータの国産化を目指したのがミットヨの歴史の始まりです。1936年には社名を「三豊製作所」へ。やがて研究の成果も現れ、ようやく販売用の最初の量産ロット100個が完成しました。このとき、良品の中から完全無欠な17個だけを残し、残りの83個は従業員一同で工場敷地に埋めたのです。これは、検査を甘くして品質・性能に妥協はしないという決意の証で、全員の心を引き締めるものでした。



創業当時の蒲田工場の模型(沼田記念館)



溝の口工場(現本社)操業開始(1940年)

1954- 世界への進出

輸出のはじまりから海外法人設立まで

ミットヨは創業当初から世界を目指していました。1954年にアメリカで開かれた第1回国際計量器会議と展示会に、沼田恵範は日本代表として参加。精密測定機器の世界的な動向や自社の位置づけを確認する絶好の機会となりました。この経験がその後の輸出の足掛かりとなり、1963年には初の海外拠点をアメリカに設立します。続いて1968年にはドイツに販売会社を設立。以来、南米、ヨーロッパやアジアなど、世界各国にネットワークを拡大していきました。



海外の新聞で紹介される創業者 沼田恵範(1954年)



米国市場への拠点進出(1963年)



1987-

三豊からミットヨへ

デジタル化で業界をリード

1970年代後半より、世界の測定機器業界では測定工具のデジタル化が大きな潮流となっていました。いかに小型に、そして低コストでデジタル化を実現するか。メーカー間で熾烈な技術競争が始まる中、1978年、デジタル測定工具「デジマチックシリーズ」を発売すると、国内外の市場を席巻するヒット商品に。以降もラインナップ強化や改良を重ね、デジタル化で業界をリードしていきました。そして創業50年余りを経た1987年、「株式会社ミットヨ」と社名を改め、21世紀に向け新たな一歩を踏み出します。



世界初のCNC表面粗さ測定機および輪郭形状測定機シリーズ発売(2003年)



世界初 最小表示量0.1 μmのマイクロメータMDH-25M生産開始(2011年)

2017-

新たな地平に向かって

製造現場を支えるソリューション企業として

創業から80年以上を経た今なお、ミットヨは進化と変革の過渡期にあります。IoTをはじめとする先端の科学技術が登場し、産業が高度化する中で、「測定」に向けられるニーズも次々と変化しています。ミットヨは「単に変化に対応するばかりではなく、世の中に变化を起こす側でありたい」と考えています。まだ形のないニーズを汲み取り、お客様が想像もしなかったようなソリューションへ。測定機器メーカー以上の、製造現場を支えるパートナーとして、常に新しい提案を続けていきます。



画像センサ/画像処理・測定ユニット



インライン計測

精密測定で社会に貢献する

創業者の沼田恵範は、1897年、広島県のお寺で生まれました。

戦争の時代の中で、「共存共栄」の仏教を弘め、

世界平和を実現したいとの思いを抱いた若き日の恵範は、

自らの信念に従ってアメリカに渡り、

苦学を続けながら、東洋文化を紹介する出版活動を始めました。

しかし、やがて手掛けていた文化雑誌は廃刊となり、

「良い活動も資金がないと続けられない」ということを痛感します。

そんな恵範が、帰国後、世界平和への貢献という思いを捨てられず、

資金を得るために起業を決意した——それがミットヨの始まりです。

「精密測定で社会に貢献する」という経営理念には、

ミットヨの事業の目的は、目先の利益を追うことなく、

社会の発展に貢献することである、という明確な意思が込められています。

そのため、ミットヨの企業活動は、

精密測定機器のメーカーという枠にとどまることなく、

理念に基づく様々な社会的活動を展開しています。

文化・科学の振興のために

測定機器のルーツと変遷を展示 ミットヨ測定博物館

精密測定機器の進化の歴史を展示する専門博物館です。収蔵物は経済産業省より「近代化産業遺産群」として認定されています。ミットヨの歩みのほか、広く世界から集めた計測機器の歴史的資料や製品を展示しています。



研究開発の助成と国際協力の推進 公益財団法人 三豊科学技術振興協会

日本が科学技術を通して世界の平和と安全および産業経済の発展に寄与できるよう、優れた研究開発の助成ならびに研究者相互の国際協力の推進のために設立。ミットヨは、寄付を通じて財団の活動を継続的に支援しています。



一つの理念のもとに

人類の平和と幸福のために 公益財団法人 仏教伝道協会

創業者沼田恵範の発願により1965年に設立。「仏教聖典」の編集、刊行とその普及を事業の柱として、仏教が持つ東洋の叡智を一人でも多くの世界の人びとに伝えるための活動や事業を展開しています。



食を通して社会に貢献する ミットヨフーズ

株式会社ミットヨフーズは、創業者沼田恵範が1986年に創業。不殺生による食品産業への構想と、仏教精神を「食」の面からも伝えたいという創業者の遺志を受け継ぎ、現在は「ゆば」の生産を通じて理念の実現に向け精進しています。



創業者と浄蓮寺

創業者沼田恵範は1897(明治30)年、広島県の浄土真宗本願寺派米城山至徳院浄蓮寺に沼田家の三男として生まれました。やがて内閣資源局統計官となるも仏教を世の中に弘めたいとの思いは強く、その資金を得るべく、他人に頼るのではなく自ら事業を興すことを決意しました。創業者の志を育んだ浄蓮寺は、現在もおもミットヨとゆかりが深く、そのすぐ隣はミットヨ志和工場となっています。



ものをつくる前に、人をつくる。 これまでも、これからも。

「良い環境 良い人間 良い技術」。

信頼される商品を作り出すには人の育成が欠かせず、

良い人材は、良い職場環境のもとに育つ。

創業者の言葉が、現在も社是としてミットヨに根付いています。

私たちにとって、会社とは、縁あって集まった社員が
共に高め合い、共に幸せを追求する「共生の場」です。

国内、海外合わせ5,000人以上の従業員が働くミットヨでは、

人こそが会社の未来を創っていく可能性の源泉と考え、

世界中の職場が同じ考えのもと、社是の実践を心がけています。

そして、創業時の思いを忘れず挑戦し続ける、

ベンチャースピリットあふれる会社を追い求めていきます。



入社から継続する一貫したキャリア形成 ミットヨのチャレンジを促す仕組み

一人一人の「やりたい」「成功させたい」というチャレンジ精神の実現に向けた活動を下支えする人事評価制度を設けています。対話によるマネジメントを基本とし、会社の期待や各人の目標を明確に共有。たとえ小さくても、自らの当事者意識のもとに推進される新しい挑戦を奨励し、前向きな失敗もプラスに評価します。



垣根のない社風の醸成 クロスコミュニケーション

多様な人材が集まるミットヨでは、部門やチームの枠を超えた自由闊達なコミュニケーションが自然と発生する環境づくりを行っています。全員がフラットな立場で話し合う会議スタイルの他、仕事を離れたサークル活動（BUKATSU）など、職場の空気を活性化させる様々な仕組みを取り入れ、実践しています。





心身ともに健康でいきいきと働くためのアプローチ 健康経営

社員の心身の健康を重視し、ミットヨ健康経営宣言を制定しています。健康指導、健康相談、ストレスチェック集団分析結果による職場改善活動、がん予防講演やランチセミナーによる食育等、健康への様々な活動を実施し各種認証を取得しています。



匠の心と技を伝承する仕組み 匠マイスター制度

精密測定分野で長年培ってきた「コア技術」を自社独自の財産と考え、技能者の育成と世代を超えた技能伝承を推進しています。「匠マイスター制度」の取り組みでは、黄綬褒章をはじめとする表彰歴を持つ熟練技能者の技と経験を日々の作業を通じて教授し、これからのミットヨのものづくりを担う人材を時間をかけて養成しています。



経営理念

会社の存在意義、会社経営の基本目的

精密測定で社会に貢献する

【経営理念の6つの指針】

- 1つ、精密測定に関する課題解決を通じて、お客様の事業発展に貢献する
- 1つ、精密測定技術の練磨・革新を通じて、世界の産業・技術の進展に貢献する
- 1つ、事業活動に関わりのある全てのパートナーとの共存共栄を図る
- 1つ、世界の平和、人類の幸福、自然環境との調和に寄与する
- 1つ、誠実で責任ある企業活動を行い、社会の信頼に応える
- 1つ、働きがいのある“生き生きとした”企業風土を築き上げる

Mitutoyo

社是・社訓

経営理念を実現するための会社運営基本方針

経営理念を実践するための行動指針

【社是】

「良い環境」「良い人間」「良い技術」

【社訓】

「誠実」「深慮」「敢闘」

経営理念の6つの指針と対応するSDGs

SDGsの各目標

ミットヨの主な取り組み



3. すべての人に健康と福祉を

- ・健康経営の推進
- ・川崎ブレイブサンダースへのスポンサーシップを通し、地域の子供たちへのスポーツ体験の支援



8. 働きがいも経済成長も

- ・会社の発展に見合う積極的な雇用の創出
- ・すべての人がイキイキと働ける環境づくり



9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

- ・IoTやAIの技術応用追求
- ・高度な技術により生みだされる精密測定機器で世界中のものづくりに貢献
- ・公益財団法人 三豊科学技術振興協会への支援（次世代を担う技術育成支援）
- ・グローバルなミットヨ計測学院の展開による技術者育成支援
- ・技能五輪国際大会の支援（次世代を担う技術者の育成支援）



12. つくる責任・つかう責任

- ・国家標準レベルの標準器による品質の担保
- ・顧客の生産現場における品質向上支援



13. 気候変動に具体的な対策を

- ・省エネルギー、廃棄物削減への取り組み
- ・環境配慮型製品の開発



16. 平和と公正をすべての人に

- ・安全保障貿易管理に対する取り組み「ミットヨ輸出管理プログラム」
- ・公益財団法人 仏教伝道協会への支援（世界中へ仏教聖典の配布など）

経営理念の6つの指針

Mitutoyo



「測る」のその先へ 新しいミットヨにご期待ください

ミットヨは、1934年の創業以来「測ること」と向き合い続けてきました。
精密測定は、何よりも信頼性がすべてです。
だからこそ、当社の商品は常に品質を第一に考え、
いつの時代もひたすらそのポリシーを徹底してきた結果、
おかげさまで数多くの現場でご愛用をいただいております。
世界中のお客様から「測定のミットヨ」としてご評価をいただけているということ。
測定に関してお困りの際に、ミットヨを想起いただけるということ。
その事実は、私たちにとって言うまでもなく無上の喜びです。
しかし、誤解を恐れずに申し上げるならば、
これからのミットヨは自らの手で「これまでのミットヨ」のイメージを塗り変え、
お客様の期待を超える存在になっていきたいのです。
「こんな問題までミットヨに相談できるとは思ってもみなかった」
そんな驚きと感動を、これからのミットヨは提供していきたいと考えます。
ミットヨは変わり続けます。
自ら新しい変化を生み出し、お客様へ次の価値を提案していきます。
新しいミットヨにご期待いただければ幸いです。

代表取締役社長

沼田 恵明

ミットヨグループ概要

※2021年12月現在

株式会社ミットヨ

本社	神奈川県川崎市高津区坂戸1-20-1 〒213-8533
創立	1934年(昭和9年)10月22日
資本金	391百万円
自己資本	単独155,277百万円(自己資本比率82.7%)、 連結209,660百万円(自己資本比率80.5%)
単独売上高	71,888百万円
連結売上高	117,029百万円 (連結対象 日本6社 欧州20社 アジア14社 北米・中南米6社 計46社)
従業員数	単独 2,820名 / 連結 5,270名
代表者	代表取締役社長 沼田 恵明
事業内容	精密測定機器の製造・販売

ISO14001 認証取得

健康経営優良法人(大規模法人部門)認定取得



JQA-EM6891



2022
健康経営優良法人
Health and productivity



ミットヨカンパニーサイト
<https://www.mitutoyo.co.jp>

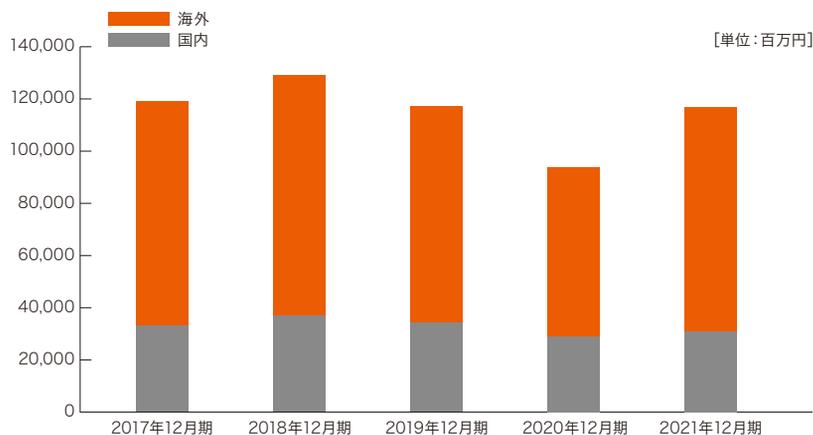


360° パーチャル見学
ミットヨ測定博物館



精密測定で社会に貢献する
ミットヨコンセプト動画

連結売上高



従業員数(単独・連結)

